松戸市教育委員会

教育長　伊藤　純一

桜の賑やかさが続く嬉しさに新しい元号を迎える嬉しさが加わる中で、平成３１年度がスタートしました。景色が命あふれる緑に変わり、学校教育では新学習指導要領の完全実施を来年度に控え、入念な準備が進められています。そして、松戸市教育委員会では、これまで小さな改革を積んできた市立松戸高校が、いよいよ単位制高校としての「市松改革」の大きなスタートを切りました。さらには、松戸市の新たな学びの場として「夜間中学校」第一中学校みらい分校も無事に動き始め、第二次の「松戸市教育改革」の実質的なスタートを切ることが出来ました。

人生１００年時代、少子高齢化社会という社会構造の変化、そしてＩｏＴ、ＡＩ等の高度情報化社会などの文化の急速な変化の中で、合理性、利便性追求の流れはより加速しています。その中で、私達一人ひとりは、人間として本来持ち得てきた能力をしっかりと身につけなければなりません。子どもたちにはその人間性を豊かなものにし、かつ新しい動きを使いこなす強靭さも身につけさせなければなりません。

文部科学省では昨年秋に総合教育政策局が設置され、社会教育と学校教育の境を超えた動きが具体化され始めています。教育に関する課題については、いくつかの要因が複雑に絡み合い、その解決に複数の視点からの動きが必要になるということです。

松戸市教育委員会では、新言語活用科へのバージョンアップなどを柱とする学力向上策、教育施設の中長期にわたる長寿命化計画、複数の部署との連携で進める幼児家庭教育、仮称東松戸図書館の開設を嚆矢とする知の拠点作りなど、これから長い時間をかけて取り組むべき事項が迫ってきています。松戸市教育委員会としては、２０３０年を目途とされている Society5.0 の新たな価値観を探りながら、大きな改革のうねりを創り出すことに挑戦していきます。

価値観やニーズの多様化を考えますと、これからの施策展開の難しさ、そして改革の方向性を探る上では、″Create & Consolidate″(創造と統合)を強く意識せざるを得ない状況にあります。首都圏の周縁部にあるという松戸市の地理的、社会的環境の複雑さの中で、松戸市に今ある文化活動の幅広さと深さを活かしながら、学校や図書館を核として文化の持つ教育的な役割を求めていくことが、文化・教育の質をより高くすることにつながると考えます。

これまでも「教育はみんなで」を皆さんにお願いして、多くの方々のご支援をいただきながら各施策を進めさせていただいてきましたが、地域、学校、団体、家庭、行政が連携し、人と人とがつながっていく教育行政を目指します。宜しくお願いします。

伊藤 純一